

# 令和2年度学校自己評価システムシート(埼玉県立越谷特別支援学校)

目指す学校像	一人一人の児童生徒の豊かな成長を支援し、保護者と地域の信頼に応える学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 新たな学校教育目標のもと、12年間を見通した教育課程の編成と、児童生徒一人一人を大切に した教育活動を行う。 2 肢体不自由特別支援学校として、保護者と地域に信頼される学校づくりを行う。 3 安心安全な教育環境づくりと、その基盤としての教育力を高める教員集団づくりを行う。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月1日 現在)		
年 度 目 標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	○保護者アンケートの結果から、おおむね教育活動は良好であると思われる。「学校は好きですか」の項目の評価が高かったことはよいことである。さらに、どこが好きかを回答する項目を追加するとよい。 ○本校の強みは、小、中、高、寄宿舎があることである。小一中一高の流れができていることはいいことだ。卒業後に地域へどのように託すかまでつながるとよい。 ○学習指導要領の改訂に伴い、児童生徒の多様な実態に応じた教育課程について、各類型における具体的な指導方法について研究及び研修を行う。	(1) 児童生徒の実態等の根拠に基づく充実した授業づくりと評価を行う	①新しい「学校教育目標」、「目指す学校像」を踏まえ、児童生徒一人一人の心身の発達や障害の状態に応じた授業づくりに取り組む。 ②「主体的、対話的で深い学び」について研究授業及び研究協議を実施し、授業改善と評価について検討を行う。	①R-PCDA サイクルに基づき、児童生徒一人一人の実態に応じた授業づくりができたか。 ②研究授業、研究協議を通して、「主体的、対話的で深い学び」について共通理解を深め、授業改善と評価を行うことができたか。 ※教員アンケートによる評価			
		(2) 児童生徒の実態と学習指導要領に基づく指導計画及び教育課程を作成する	①学部間の交流を行い、全教員が12年間の教育活動の一貫性を共有する。 ②教育課程検討員会を中心に各類型の教育課程に関する課題解決に取り組む。	①計画的に他学部の教育活動に参加し、授業実践を通して理解を深めることができたか。 ②各教科等の見方、考え方、観点別評価を確認し、効果的な教育課程を検討できたか。 ※教員アンケートによる評価			
2	○保護者とのコミュニケーションは大切である。子供を中心とした連携を意識するとよい。保護者間の連携が課題である。学校は保護者と保護者の関係をつなぐ役割もあると思われる。 ○引き続きホームページを活用して情報を発信していくとよい。 ○支援籍学習、他校との交流会、月例学校公開、地域連絡会等を実施し、本校の教育活動の周知を行う。 ○寄宿舎の活動、行事等を通し、保護者、卒業生、地域との交流を図る。	(1) 保護者の信頼に応える学校づくりを行う	①連絡帳、個別面談、授業参観等、場面と機会を捉えて保護者とのコミュニケーション、情報交換等を行う。 ②児童生徒の教育支援について責任をもって説明する。	①児童生徒の教育活動について、学校と保護者が共通理解をもって取り組むことができたか。 ②保護者からの相談や質問に誠意ある対応ができたか。 ※教員、保護者アンケートによる評価			
		(2) 地域の信頼に応える学校づくりを行う	①学校ホームページを活用し、教育活動の紹介や学校の情報の発信を行う。 ②PTA、地域と連携し、人材の活用、教育活動への協力を充実させる。	①学校ホームページを適時更新し、有意義な情報発信ができたか。 ②PTA、近隣の法人会等を活用した教育活動に取り組むことができたか。 ※教員、保護者アンケートによる評価			
3	○危機対策について、着実に整備されてきている。避難訓練等、災害時に対する備えを進める。学校のイメージとして「安全」であることが大切である。介助や摂食指導について理解を深めるとよい。 ○教員の異動が多く専門性を高めることが難しいと思う。医療的ケアの対象児も多い。専門性を継承してほしい。 ○教育実習生や介護等体験の実習生の受け入れ等、人材育成の役割を担っている。 ○学校における働き方改革を進め、教職員が元気で活発な学校づくりを行う。	(1) 安心安全で児童生徒のニーズに応じた教育環境を整える	①ICT等の機器を効果的に活用した指導と支援の充実を図る。 ②事故防止、再発防止、緊急時の対応、災害対策、一斉メールの活用等について効果的な運用、改善及び準備、訓練等を行う。	①ICT機器の活用、環境の整備及び指導の実践ができたか。 ②ヒヤリハット報告、引き渡し訓練、感染症対策等、緊急時及び災害時、一斉メールについて対応、改善ができたか。 ※教員アンケートによる評価			
		(2) 教職員がチームで専門性を発揮し元気に働くことのできる職場環境を作る	①校内及び外部の研修に参加する。後継の人材の育成を行う。 ②教育公務員としての自覚とワークライフバランスの意識の醸成を図る。	①全肢研埼玉大会に係る運営及び研修ができたか。 ②服務規律の順守、ノー残業デー、ふれあいデー、勤務管理システムの活用等、効果的な業務改善ができたか。 ※教員アンケートによる評価			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和	年月日
学校関係者からの意見・要望・評価等		